Fukushima Prefectural Centre for Environmental Creation
NEWS LETTER
福島県環境創造センターニュースレター 2021.12.27 17

# 環境創造センター開所5周年記念 特別号!!

イベント情報や研究の紹介に加え5年間のあゆみについて特集します!

## 開催報告 環境創造センター開所5周年記念イベント

開催日 2021年10月16日(土)
会場:環境創造センター

FUKUSHIMA 5VISIONS 飛び出した イロドリを探せ!

センターで行っている「ふくしまの環境の未来を創る取組」を多くの方に知ってもらうため、開所5周年記念イベント「FUKUSHIMA 5VISIONS」を開催しました。

小学生～中学生(保護者を含む)を対象としたこのイベントでは、普段入れないセンターの研究施設を周遊するプログラム等を実施しました。

参加者の方からは「福島の未来について考えることができた」といった感想が寄せられました。センターの取組を知って、**ふくしまの環境や未来に対する意識を高めるきっかけに**していただければと思います!

たくさんのご参加ありがとうございました!

当日の様子はこちら!▶

## 開催予告 ふくしまの高校生が伝えるナラティブ・プレゼンテーション

開催日 2022年1月9日(日) 12:30～
会場 いわき芸術文化交流館アリオス

震災当時幼かった今の高校生たちが、震災から今日まで体験したこと、悩んだこと、考えたことを振り返りながら紡いだ**「ふくしまへの私の今の念い(おもい)」を発信**します。

**大会の様子は2月18日(金)頃YouTubeで配信**しますので、是非ご覧ください。

## 研究紹介

環境創造センターでは、福島県の環境回復・創造に向けて、「放射線計測」、「除染・廃棄物」、「環境動態」、「環境創造」の4つの部門に分かれて、日々研究を行っています。今回は環境動態部門(野生動物グループ)の研究について紹介します。

福島県では、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故により飛散した放射性核種が環境中から野生動物に移動することにより、野生動物の体内からも放射性核種が検出されています。このことは、野生動物への影響のみならず、狩猟鳥獣の肉(ジビエ)のような資源利用の観点からも問題となっているところです。そのため、放射性核種が環境中から野生動物へ移る仕組みや野生動物体内での放射性核種の移動について研究を行っています。

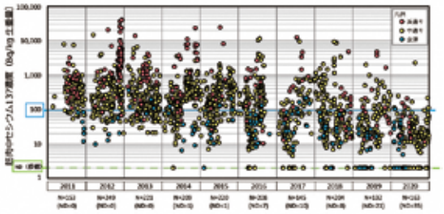
### 野生動物の体内に含まれる放射性核種濃度の調査研究

福島県のホームページにおいて、狩猟などにより捕獲された野生鳥獣(主に食用となり得る狩猟鳥獣として、イノシシ、ツキノワグマ、ニホンジカ、キジ、ヤマドリ、カモ類、ノウサギ)から筋肉を採取し、放射性核種の濃度測定を行った結果をみることができます。

ホームページはこちらから

アドレスはこちらから https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/wildlife-radiationmonitoring1.html

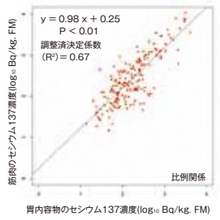
イノシシの筋肉中セシウム137濃度においては、検出下限値未満となる個体があります。一方で、近年であっても食品の基準値(セシウム134とセシウム137の合算値で100Bq/kg)を超過する個体が確認されています。



▲イノシシの筋肉中におけるセシウム137濃度の時系列変化
(2011年のモニタリング開始日から2020年度)

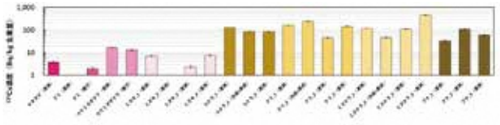
### 野生動物の食性の調査研究

これまでの調査研究で、胃の内容物の放射性セシウム濃度と筋肉中の放射性セシウム濃度は、比例関係にあることが明らかになっています。




イノシシの筋肉及び胃内容物中セシウム137濃度の相関▶

野生動物の食物として考えられる植物の放射性セシウム濃度の調査の結果、液果(ミズキ等)よりも堅果(コナラ等)の方が比較的に放射性セシウム濃度が高い傾向にあることがわかりました。



引き続き、野生動物の食べているものや生息域の動植物を調べて、筋肉中セシウム137濃度にどのような変化があるか調査研究していきます。

## 開催中 日本列島大分析 元素で見る『地球化学図』in コミュタン福島

開催期間 2021年12月14日(火)▶2022年1月16日(日)
会場:コミュタン福島 1F 会議室

**私たちの足元にはどのような元素がどれくらい存在しているのか。**それらはなぜそこにあるのか。

そのような疑問への助けとなる**「地球化学図」**。

このパネル展では、地質を反映した様々な表情を見せてくれる日本列島について地球化学図で探っています!

後援:産総研地質調査総合センター
協力:国立研究開発法人国立環境研究所

## 開催報告 第5回福島県環境創造シンポジウム わたしたちのミライPROJECT

**第5回福島県環境創造シンポジウム**を開催しました。

小学生～大人までの幅広い年齢層のパネリストが、実現したい福島県の環境の未来とそれに向けたアクションを**「環境創造宣言」**としてまとめました。

宣言文はコミュタン福島に展示しておりますので、ぜひご覧ください!

わたしたちのミライPROJECT

HP成果報告▶

## 福島県環境創造センター

福島県の環境回復・創造に向けた「モニタリング」、「調査研究」、「情報収集・発信」、「教育・研修・交流」の業務を行っています。環境創造センターホームページより、県内市町村の空間線量、大気環境等のモニタリング情報を御覧いただけます。

## 福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」 入場無料

TEL.0247−61−5721 FAX.0247−61−5727

○開館時間 9:00～17:00
○休館日 毎週月曜(月曜が祝日の場合、翌平日)・12月29日～1月3日

ホームページ https://com-fukushima.jp/

車をご利用の場合 磐越自動車道船引三春ICより約5分
電車をご利用の場合 JR磐越東線三春駅より車で約12分
三春町町営バスをご利用の場合(コミュタン福島をご利用の方はバス料金無料) 三春駅～環境創造センター(コミュタン福島)へ 年末年始(12月31日～1月3日)を除き毎日(1日4便)運行

アクセスMAP

田村西部工業団地内、ドームが目印です。

発行 福島県環境創造センター(企画課)
住所:福島県田村郡三春町深作10番2号(田村西部工業団地内) 電話:0247−61−6128 FAX:0247−61−6119
ホームページ:福島県HP https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/298/ 福島県環境創造センター https://www.fukushima-kankyosozo.jp/

# 環境創造センターのあゆみ

## 研究のあゆみ

「放射線計測」、「除染・廃棄物」、「環境動態」、「環境創造」の4つの分野で、福島県の環境回復・創造に向けて、福島県・日本原子力研究開発機構（JAEA）・国立環境研究所（NIES）の三機関が連携して、研究を行っています。

### 放射線計測

より簡易に広範囲の空間線量率を測定するため、歩行サーベイ技術の開発を行いました。歩行サーベイは、里山再生モデル事業等に活用されています。

歩行サーベイ

結果の可視化

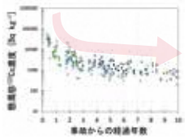
### 除染・廃棄物

仮置場の適正管理のため、仮置場資材の耐久性の調査を実施しました。仮置場で使用されていた保管容器が十分な強度を保持していることを確認しました。

仮置場資材の耐久性試験

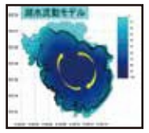
### 環境動態

環境中の放射性セシウムの挙動を把握するため、県内の河川を調査しています。河川水中の放射性セシウム濃度は、事故直後から継続して低下する傾向を確認しています。



### 環境創造

猪苗代湖の環境保全のための調査研究を行っています。水質等の様々なデータを基に、水質予測のベースとなるモデルの構築を行いました。

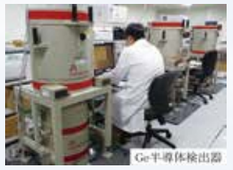


環境創造センターでは、記載の調査研究などをはじめ、様々な取組についてホームページで紹介しています。

## 調査・分析のあゆみ

環境中の空間線量率・放射能や有害物質のモニタリングに取り組んできました。

空間線量率は、原子力発電所周辺を除いてほとんどの地点で事故前と同程度の値となっています。




環境放射能の測定

海水（海底土）中の有害物質調査

## 触れる地球　地球温暖化やSDGs等の学習コンテンツ

昨今、地球温暖化対策の国際的な枠組みである「パリ協定」の締結や「SDGs」が国連で採択される等、地球規模の視点による議論や取組が今後ますます必要になっています。

次世代を担う子ども達が最先端のデジタル地球儀に触れながら、地球全体を視覚的に捉え、地球温暖化やSDGsなど様々な物事への学びを深められるよう「触れる地球」を導入しました。

## センターの歩み

令和元年度「触れる地球」導入

平成31年度～各種人材育成講座始動

平成30年度 環境創造シアター県オリジナル番組「福島ルネッサンス」国際映像祭で会場賞受賞

平成29年度 開所1周年

平成28年度 センターグランドオープン

平成30年度 面的除染終了

令和元年度 東日本台風

令和元年度 新型コロナウイルス感染症流行

令和3年度 来館40万人達成

令和2年度 東日本大震災から10年

環境創造センター震災10年展

令和2年度 「福島県2050年カーボンニュートラル」宣言

ふくしまゼロカーボンDAY!
（R3.11.27）

## 世の中の動き

### 震災10年と人材育成講座

震災から10年以上が経過しましたが、福島の復興は道半ばです。環境創造センターでは、震災や原子力災害などについて自ら考え、学び、情報発信していく人材を育成するため各種講座を開設しています。

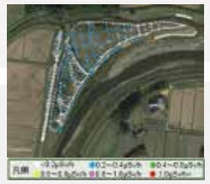
◎コミュタンサイエンスアカデミア（小中学生対象）
◎理科自由研究発表会atコミュタン福島（小学生対象）
◎ふくしまナラティブ・スコラ（高校生対象）

### 令和元年東日本台風に係る調査研究

令和元年東日本台風に係る調査研究の取組として、河川氾濫による空間線量率への影響を把握するため、河川氾濫後の河川公園の調査を行い、空間線量率の上昇がみられないことを確認しました。また、発生した災害廃棄物の円滑な処理のため、仮置場の空間線量率の調査や廃棄物中の放射性セシウム濃度調査等を行いました。

台風前

台風後



・取組の詳細は、以下のHPを御覧ください。
https://www.fukushima-kankyosozo.jp/reiwa1typhoon19chousa.html

### コミュタンスタッフより

平成28年7月に開館したコミュタン福島は、おかげさまで多くの来館をいただき、今年の7月には累計来館40万人目の方をお迎えすることができました。開館以来、福島の環境回復と環境創造の学びと発信を目指して、多くの皆さまとともに未来を創造する対話と共創の場としてスタッフ一同取り組んできました。開館当初は戸惑うことも多くありましたが、来館された方々からの暖かい言葉をいただくことが何よりの励みになりました。
これからもコミュタン福島で皆さんに会えることを楽しみにしています。

### コロナ禍とおうちdeコミュタン

コロナ禍において「おうちでもコミュタン福島を楽しんでいただきたい!」という想いから『おうちdeコミュタン』を開設しました!

4分間でコミュタン福島を知る『コミュタン福島クイックツアー』やコミュタン福島で体験できる科学工作やエコクラフトなどの『イベント紹介ビデオ』をおうちでも見ることができます。是非ご覧ください!